

平成27年11月14日開催

県内初開催

第1回三重メディカルラリー2015



平成27年11月4日

**医師、看護師、救急救命士など救急医療に携わる者が
主に病院前救護における知識、技術を競う競技会**

**「救急災害医療の質の向上」と「医療と消防の連携強化」を
目的に、医師・看護師・救急救命士でチームを組み、仮想
の災害救急現場で模擬患者を診察して限られた時間内に
的確な治療ができるかを競う**

参加実績

**津市消防本部からは、平成21年度～平成26年度に
大阪府内や愛知県内で開催されたメディカルラリーに
計4回、延べ8名の救急救命士が参加**

**三重大学医学部附属病院救命救急センター長今井寛教授から
「三重県内でのメディカルラリーの実現に当たり、記念すべき
第1回をぜひ津市で開催したい」との強い要望をいただく**

津市で開催されることで

- 津市消防本部と医療機関とのさらなる連携強化
- 職種の枠を超えた連携による病院前救護の向上
- 救急救命士の救命処置能力や活動要領の向上

第1回三重メディカルラリー2015の津市開催を快諾！

第1回三重メディカルラリー2015への参画



津市

実行委員会

消防長、通信指令官(1人)、救急救命士(2人)

参加選手

救急救命士(6人、2人1組で3チームを編成)

ボランティアスタッフ

消防職員(24人)

津市から計34人が参画

チーム①

津市消防本部
救命救急士(2人)

三重大学医学部
附属病院
医師・看護師(4人)

チーム②

津市消防本部
救命救急士(2人)

三重中央医療センター
医師・看護師(4人)

チーム③

津市消防本部
救命救急士(2人)

三重県立一志病院
医師・看護師(4人)

救急医療の現場においても医師不足をはじめとした医療資源不足は三重県でも深刻な問題であり、解決には中長期的な対策が必要

改善策として

- 医師、看護師、薬剤師など医療従事者と救急救命士を含む消防職員の連携強化を図ることで、医療資源不足を補う効果が得られる
- 医療従事者と消防職員がお互いの立場を理解し、共通認識を持つことができれば、症状に応じた医療機関への受け入れが可能
- 緊急性の高い傷病者の早期治療を実現させることに繋がる
- 大規模災害時には個々の医療技術よりも、多職種連携の組織的な活動が重要であると言われてる

医療と消防との連携強化のため、三重県でメディカルラリーを実施！

平成14年10月に大阪千里で日本初のメディカルラリーが開催されました。開催にあっては、チェコ共和国で行われた国際大会に参加したチームが、現場から救急医療が始まることや、標準化された救急医療の重要性を強く認識して、日本に取り入れたのが始まりです。

メディカルラリーの効果

これまで、三重大学医学部附属病院救命救急センターと津市消防本部の救急救命士がチームを組み、全国で行われているメディカルラリーに出場してきました。その結果、出場選手の診療能力の向上や医療と消防の連携強化という大きな成果を得ることができました。

実施体制

三重メディカルラリー実行委員会

三重大学医学部附属病院救命救急センター

三重メディカルラリー実行委員会を設立

協力
機関

三重中央医療センター
津市消防本部

三重県内の救急に精通した医師が
各ステーションの運営に協力(15名)

県内外から医療関係者が
スタッフとして110名参加

出場チーム

三重県内の病院と消防で編成した
15チーム(90名)が出場

総勢215名参加



メディカルラリーの実施方法

三重メディカルラリー実行委員会

三重中央医療センター附属
三重中央看護学校

津市消防本部

ステーション
⑧

ステーション
①

ステーション
⑦

ステーション
②

ステーション
⑥

ステーション
③

三重県内15チーム(6人1組、計90名)
が8カ所のシナリオステーションを順に回り、
各ステーションで設定された病院前救護に
おける対応・技術を競い、その結果を評価

ステーション
⑤

ステーション
④

期待できる効果

三重メディカルラリー実行委員会

大会で得られる
質の高い標準化
された救急医療



事前練習で得られる
多職種連携強化
知識・技術の向上

標準化された救急医療
の知識と技術の向上

医療と消防の連携強化に
よる適切で迅速な
救急搬送の実現

多職種連携による大規模
災害への対応強化

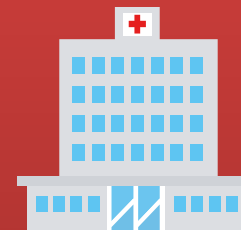
標準化された研修会・勉強会



救急隊



医師・看護師



メディカルラリーを
通して相互理解

自衛隊

医師・看護師・
技師・事務

警察

消防

地震・テロ



効果①

第1回三重メディカルラリーが津市で開催されることで、津市における医療機関等の救急災害医療に対する意識の高揚が図れる

効果②

大会までの練習を含め、多職種(医師・看護師・救急救命士)との顔の見える関係が構築でき、関係機関との連携を更に強化することで適切で迅速な救急活動を展開できる

市民の皆さんのさらなる安心・安全へ

日時

平成27年11月14日(土) 9時～16時30分

場所

津市消防本部
(久居明神町2276番地)
三重中央医療センター
附属三重中央看護学校
(久居明神町2158番地5)



問い合わせ

津市消防本部 救急課 (電話059-254-1600)

津市モーターボート競走事業の経営状況

経営状況の回復と安定化の見通し
～ 一般会計への繰り出しを復活！～

平成27年11月4日

ボートレース事業の意義と地方財政への貢献

モーターボート競走事業の意義(モーターボート競走法第1条)

モーターボートその他の船舶、船舶用機関及び船舶用品の改良及び輸出の振興並びにこれらの製造に関する事業及び海難防止に関する事業その他の海事に関する事業の振興に寄与することにより海に囲まれた我が国の発展に資し、あわせて観光に関する事業及び体育事業その他の公益の増進を目的とする事業の振興に資するとともに、地方財政の改善を図るために行う

津市モーターボート競走事業の収益から

748億6,757万6,000円

56億4,920万5,459円

100億2,309万6,692円

津 市

S29～H15年度、50年間

久居市ほか6箇町村

S42～H17年度、39年間

地方公共団体金融機構

S45～H21年度、40年間

地方財政への貢献

総額905億3,987万8,151円

全国のボートレースの入場者・売上の状況

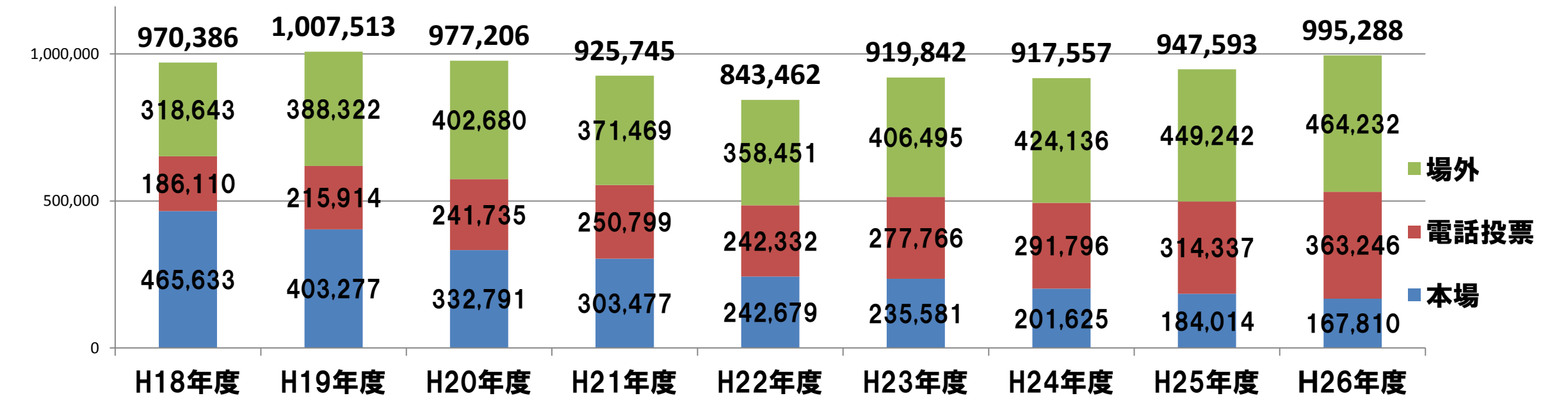
売上金額・入場者数(本場)

(単位:百万円 各欄の右数値は前年比)

	総売上		本場売上		電話投票		場外売上		入場者(人)	1人当たり 購買額(円)
平成22年度	843,462	91.1%	242,679	80.0%	242,332	96.6%	358,451	96.5%	12,713	19,100
平成23年度	919,842	109.1%	235,581	97.1%	277,766	114.6%	406,495	113.4%	13,032	18,100
平成24年度	917,557	99.8%	201,625	85.6%	291,796	105.1%	424,136	104.3%	11,160	18,100
平成25年度	947,593	103.3%	184,014	91.3%	314,337	107.7%	449,242	105.9%	9,993	18,400
平成26年度	995,288	105.0%	167,810	91.2%	363,246	115.6%	464,232	103.3%	9,319	18,000

売上の推移

(単位:百万円)



ボートレース津の売上状況

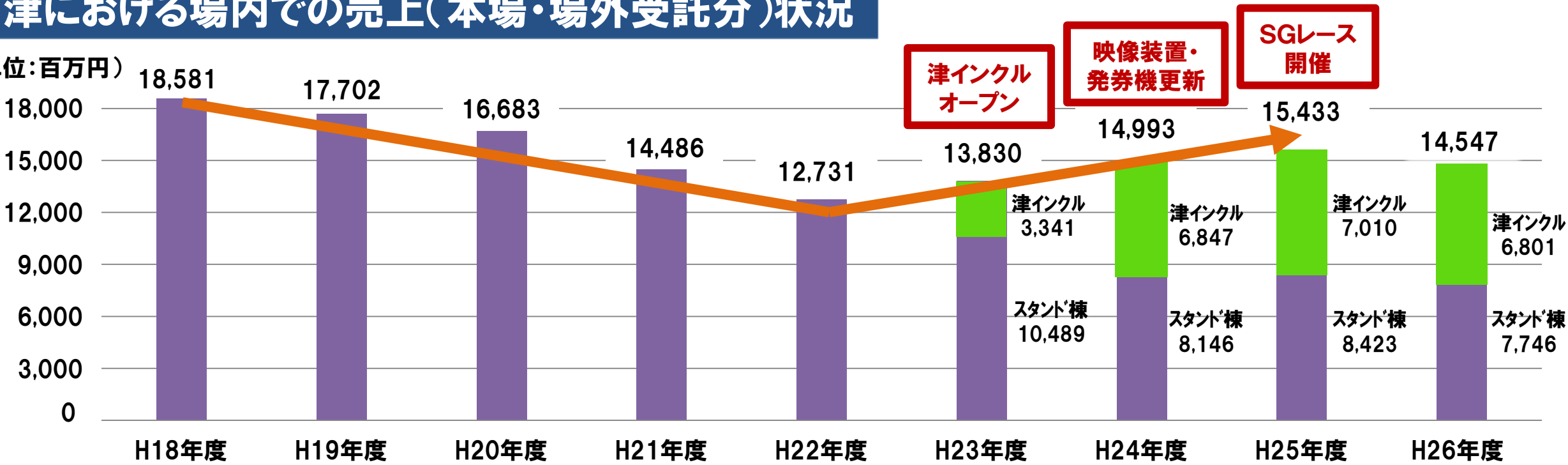
発売形態別売上金額

(単位:千円)

	本場売上	電話投票	場外委託売上	自場開催分売上計	場外受託売上	売上総合計
平成22年度	7,743,858	5,248,092	5,635,692	18,627,642	4,987,398	23,615,040
平成23年度	7,509,097	5,984,221	7,738,900	21,232,218	6,321,000	27,553,218
平成24年度	6,572,055	6,762,619	9,743,027	23,077,701	8,420,899	31,498,600
平成25年度	6,221,398	8,158,140	12,648,241	27,027,779	9,211,254	36,239,033
平成26年度	5,612,433	7,141,826	9,444,032	22,198,291	8,934,660	31,132,950

津における場内での売上(本場・場外受託分)状況

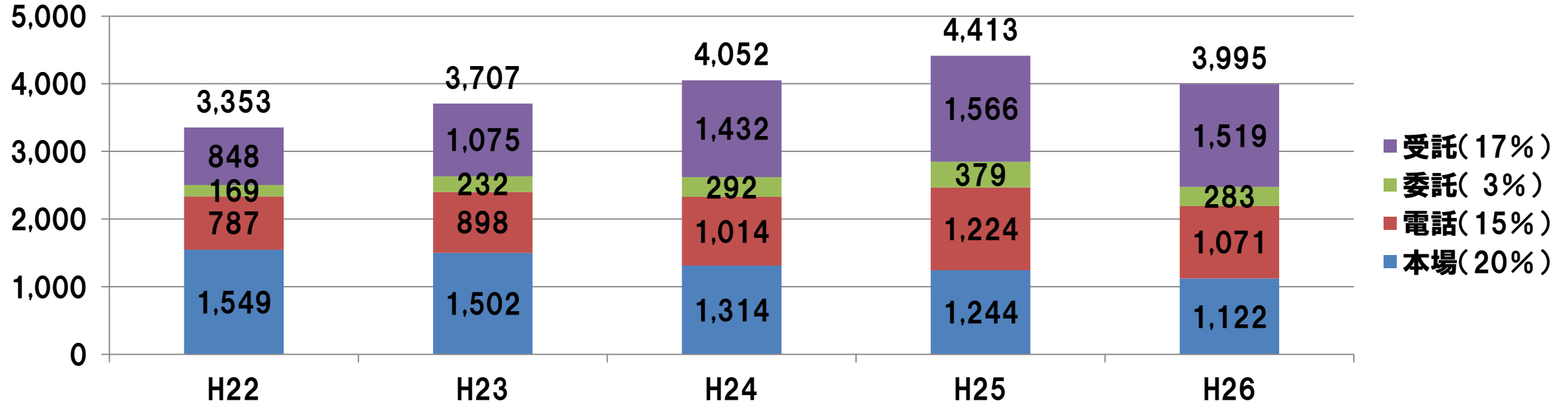
(単位:百万円)



粗利(売上総利益)の状況と収益の見通し

発売形態別の粗利(売上総利益)の状況

(単位:百万円)



収益の見通し

払戻金や法定交付金などを除くと粗利(売上総利益)は約40億円

グレード競走の開催は
さらに増益

事業運営に係る経費は約35億円

営業外の収入
約1億円

年間約6億円の収益確保の見通し

・・・収益から起債の償還

起債の償還状況

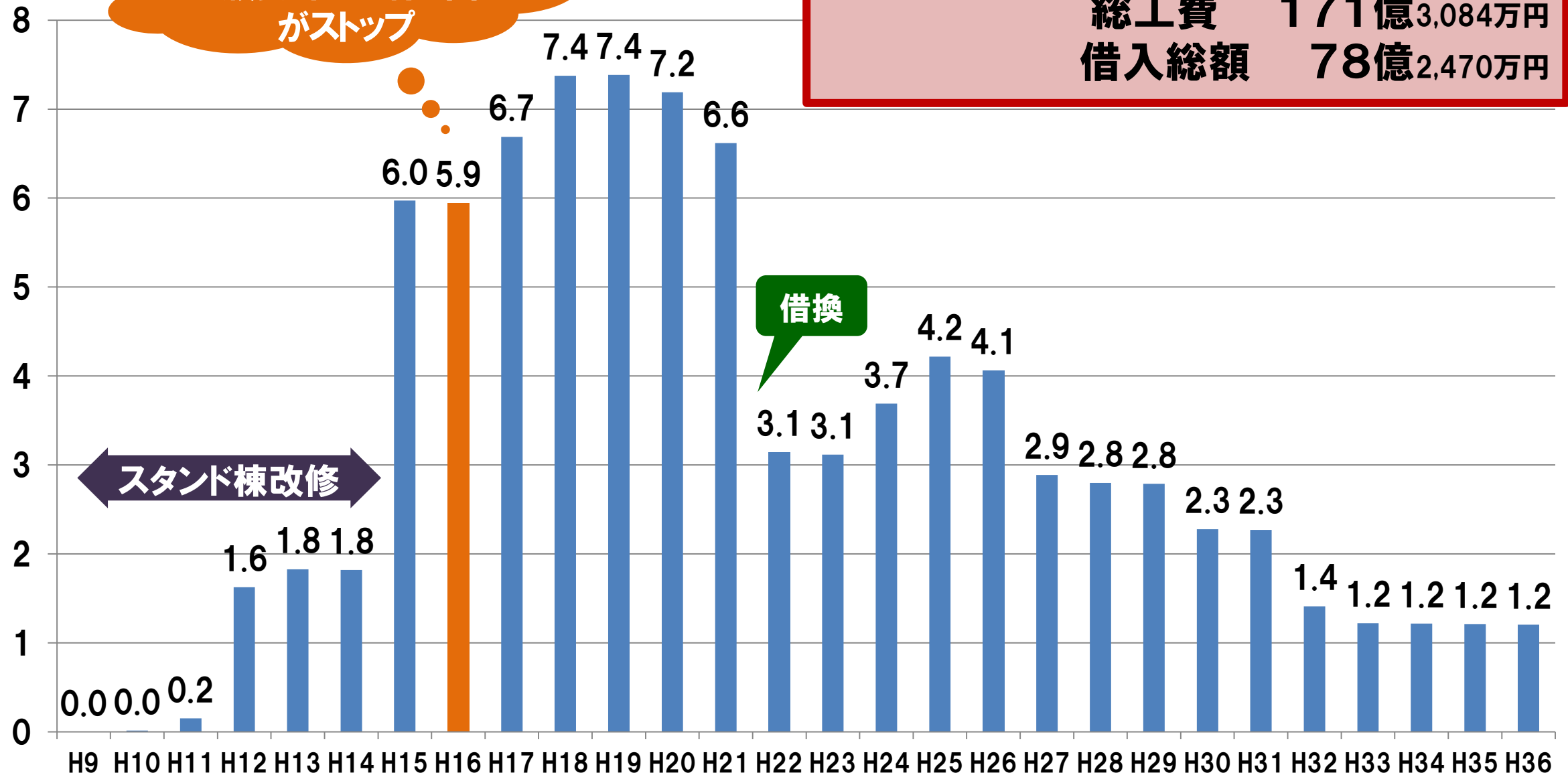
(単位:億円)

平成16年度から
一般会計への繰り出し
がストップ

スタンド棟改修(平成9年度～14年度)

総工費 171億3,084万円

借入総額 78億2,470万円



収支と基金の状況

(単位:百万円)

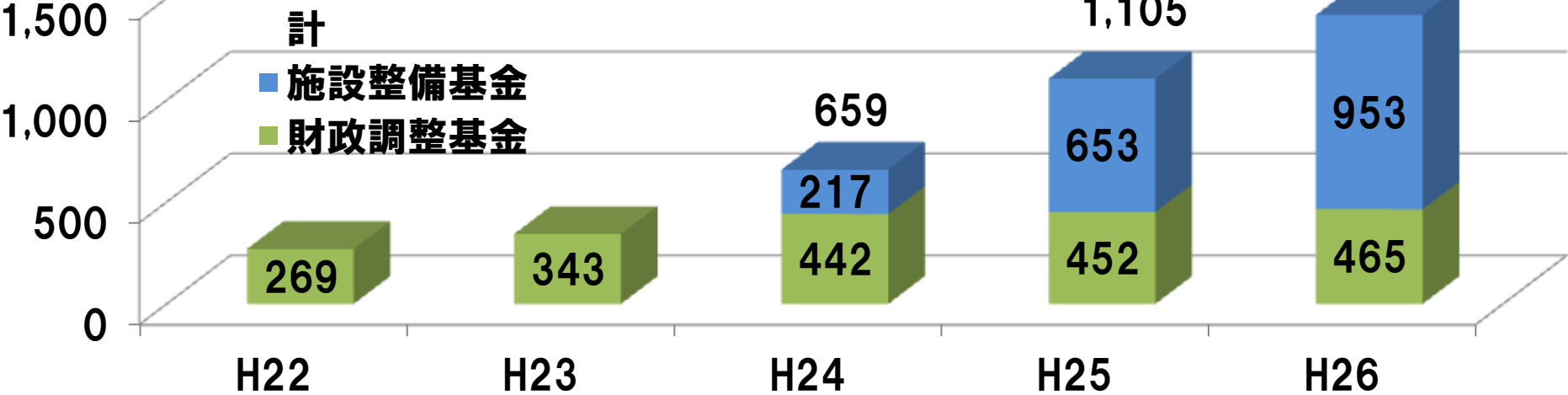
	H22	H23	H24	H25	H26
単年度の収益額※	89	349	613	877	754
償還額(利子含む)	315	312	369	422	407
財政調整基金積立額	▲175	74	99	10	13
施設整備基金積立額	—	—	217	436	300

※単年度の収益＝実質収支額－前年度繰越金＋償還金＋基金積立金

収益の回復により、経営安定化のための資金を確保

(単位:百万円)

基金の保有額



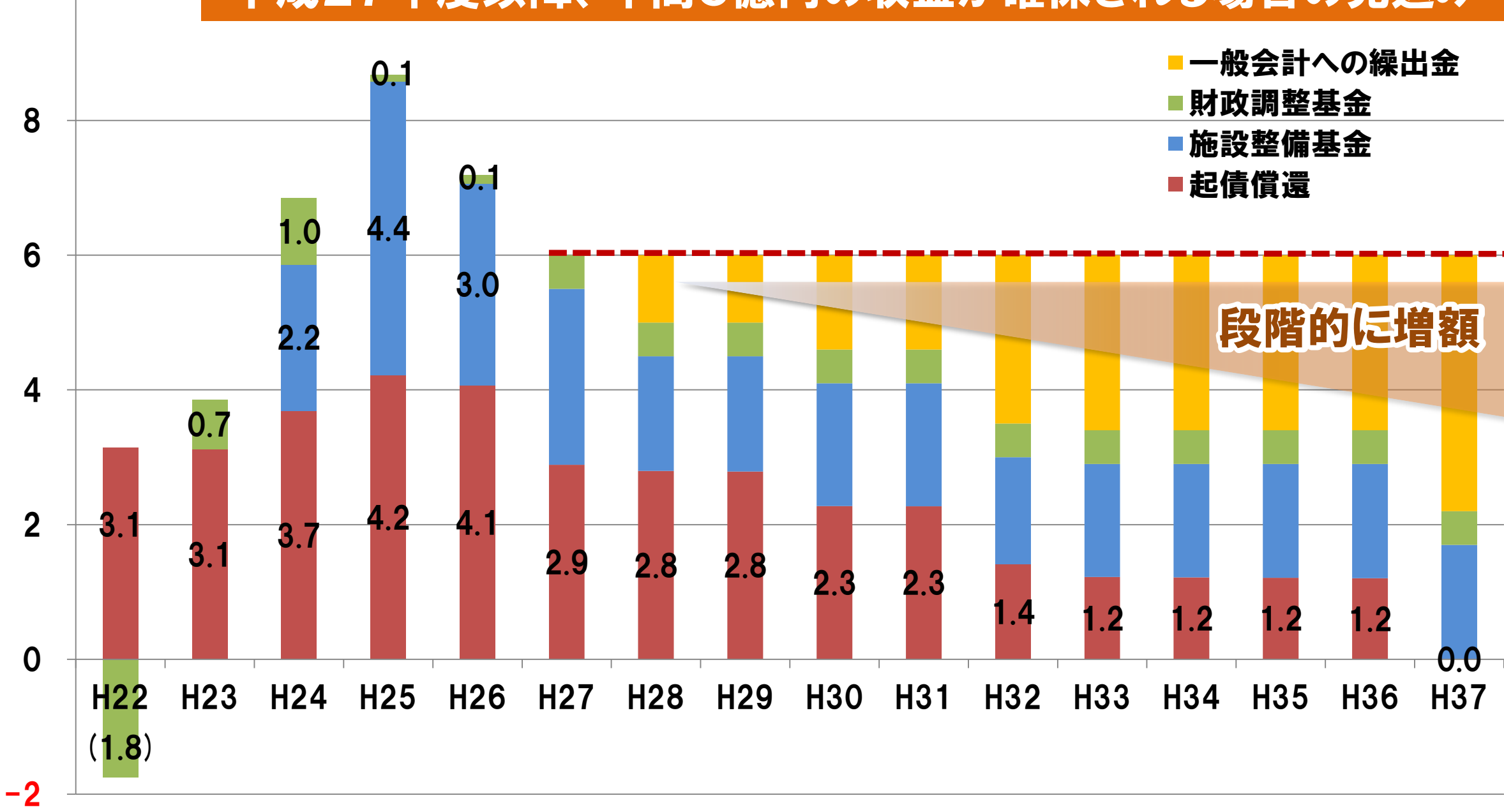
施設整備の財源
をさらに確保

10億円を目標

償還の状況と収益の使途

(単位: 億円)

平成27年度以降、年間6億円の収益が確保される場合の見込み



今後の経営方針

ポイント①

無借金経営を目指します

ポイント②

財政調整基金は10億円以上の確保を目標とします

ポイント③

施設整備基金は将来の施設運営を見据えて引き続き積立を継続します

これらにより堅実経営を図りながら
事業の安定化と一般会計への貢献！

経営回復後5年経過
～安定化の見通し

12年ぶりに一般会計への繰り出しを復活!!



平成28年度は一般会計へ1億円の繰り出し

平成28年度の予算編成方針

プレミアムGⅠの開催

8年ぶり2回目の開催

8月2日から第30回レディースチャンピオン(女子王座決定戦)を開催

対岸大型映像装置の増設

現在の大型映像装置左隣に表示装置を増設し、情報提供を充実

場内環境の充実・向上

- ・指定席にペア席・グループ席を新設し、様々な利用形態に対応
- ・完全分煙化など、場内の利便性や環境を向上

一般会計への繰り出し

一般会計へ1億円の繰り出しを実施



平成27年度 津市総合防災訓練



平成27年11月4日

平成27年度津市総合防災訓練日時・会場

訓練日時

平成27年11月22日 日 9時～12時

※雨天決行(ただし、警報発表時は中止)

訓練会場

河芸第2グラウンド及び
その周辺



平成27年度津市総合防災訓練想定とテーマ

訓練想定

- ▶ 平成27年11月22日(日)午前8時30分頃、南海トラフを震源とする大規模地震が発生し、津市内で最大震度7を記録
- ▶ 午前9時頃には、震度6強の余震が発生し、市内各所で建物の倒壊、火災、ライフラインの寸断等、大規模な被害が生じ、多くの負傷者が発生。沿岸地域には津波の到達が予想され、大津波警報が発表されている

訓練テーマ

- ▶ 防災訓練を通して市民の防災意識の高揚を図るとともに、若年層の訓練参加を得て、未来の防災指導者の育成に繋げる
- ▶ ブラインド方式の訓練を多く取り入れ、その場の状況に応じたリーダーの判断による臨機応変な対応と各関係機関相互の連携を強化する

平成27年度津市総合防災訓練の実施方針・特色

訓練実施方針

- ▶ 防災関係機関をはじめ、自主防災組織や民間企業、ボランティア、地域住民が役割分担し、相互に連携しながら、実際に災害が起きたときを想定した訓練を実施
- ▶ 訓練を通じて、地域の防災意識を高め、災害対応力を向上し、災害時の被害の軽減を目指す

訓練の特色

中学生による
積極的な訓練参加

实际的・実践的な
防災訓練の実施

各防災機関が
連携する合同訓練

平成27年度津市総合防災訓練の3つの特色

特色①

中学生による積極的な訓練参加

津市立朝陽中学校の全校生徒600名が、学校教育の一環として参加。津市防災の未来を担う生徒たちが各種災害に対応する訓練を実施

特色②

実際の・実践的な防災訓練の実施

現在、保有する装備を活用駆使して、情報伝達・災害対応を実施。また、状況の設定はできるだけ实际的になるように、ブラインド方式を取り入れた、実践的な訓練を実施

特色③

各防災機関が連携する合同訓練

「自衛隊、警察、消防」が各災害想定において相互に連携しながら、要救助者の救助を主として実施する合同訓練

平成27年度津市総合防災訓練の概要①

実働訓練 参加機関・訓練内容

市・各防災関係機関

災害対策本部設置運営訓練
情報収集訓練
避難行動要支援者搬送訓練
倒壊家屋救出訓練
多重事故車両救出訓練
現場救護所訓練
炊き出し訓練

津市立朝陽中学校

避難訓練(全校生徒合同)
水バケツリレー
負傷者搬送訓練
土砂撤去
応急手当
避難所運営訓練

その他機関

災害ボランティアセンター設置運営訓練
情報収集訓練
障害物除去訓練
現場救護所訓練
物資搬送訓練
積み土のう訓練
家屋火災消火救助訓練
火災防ぎょ訓練
家屋火災救助・初期消火訓練

住民・自主防災協議会等

避難訓練
避難所運営訓練
資機材取扱訓練

※赤色表記は、訓練特色の反映

平成27年度津市総合防災訓練の概要②

体験・展示コーナー、啓発ブース

防災体験コーナー

消火器体験
AED取り扱い体験
煙体験
地震体験



防災関係機関車両展示

航空自衛隊白山分屯基地
国土交通省三重河川国道事務所
三重県防災対策部
三重県企業庁中勢水道事務所
NTTドコモ東海支社三重支店
中部電力津営業所
津市水道局

参加機関防災啓発ブース



平成27年度津市総合防災総合訓練参加機関①

参加予定 機関・人数

54機関 約1,400人 **対前年1.6倍**

昨年度の参加機関・人数 53機関 約880人

(内訳)

国・県関係 15機関

市関係 4機関

医療関係 10機関

民間企業 13機関

その他機関 12機関

※うち災害応援協定締結団体 25機関



平成27年度津市総合防災総合訓練参加機関②

津市立朝陽中学校、津市自主防災協議会、津市婦人防火推進委員会、津市ボランティア協議会、津市身障者福祉連合会、津市社会福祉協議会、津市民防災大学、三重さきもり倶楽部中勢支部、みえ防災コーディネーター津ブロック、災害ボランティアアマチュア無線津、三重パラモータークラブ、津市国際交流協会、津市社会福祉協議会、津地区医師会、久居一志地区医師会、津歯科医師会、津薬剤師会、三重県看護協会、国立病院機構三重中央医療センター、三重大学医学部附属病院、日本赤十字社三重県支部、三重県立こころの医療センター、三重県津保健所、国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所、自衛隊三重地方協力本部、陸上自衛隊久居駐屯地第33普通科連隊、航空自衛隊笠取山分屯基地、航空自衛隊白山分屯基地、海上保安庁四日市海上保安部、三重県防災航空隊、三重県警察航空隊、三重県警察本部交通部交通機動隊、中部管区警察局三重県情報通信部、三重県警察津警察署、三重県防災対策部、三重県津地域防災総合事務所、三重県企業庁中勢水道事務所、国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所、NTTドコモ東海支社三重支店、西日本電信電話三重支店、中部電力津営業所、中部電気保安協会津営業所、東邦ガス三重センター、三重県レッカー事業協同組合、イオンリテール津SC、コメリ災害対策センター、赤帽三重県軽自動車運送協同組合、伊藤園津支店、津造園建設業組合、三重県公共嘱託登記土地家屋調査士協会、日本非常食推進機構、津市水道局、津市消防本部、津市消防団

～即答・即応し実現する市役所づくりに向けて～

津市職員行動規範

“2015CRMベストプラクティス賞”を受賞!!



平成27年11月4日

CRMベストプラクティス賞とは

CRMベストプラクティス賞の概要

一般社団法人CRM協議会が主催し、顧客中心主義経営（※CRM）の実現をめざし、戦略、組織等の観点から顧客との関係を構築し、成果を上げている企業・官公庁等を「CRMベストプラクティス賞」として、選定・表彰。CRM推進のモデルケース創りや人材育成として広く役立てることを目的に平成16年度に創設され、毎年実施されている

一般社団法人CRM協議会

概 要

CRMのあるべき姿の研究・追求と推進を目的に、平成12年に設立、平成21年10月1日から一般社団法人として活動し、経済産業省の支援のもと、運営されている団体

会員数

36会員（平成27年3月末現在、うち自治体8団体）

※CRM = CUSTOMER-CENTRIC RELATIONSHIP MANAGEMENT

ベストプラクティス賞受賞の理由

受賞モデル名

市民に尽くす行動規範・先行モデル

受賞理由

市町村合併を一つのきっかけとしてサービス品質の向上に努めるようになった。

例えば、「1週間1カ月ルール」を定めることで、市民の声や願いへの即答・即応をめざし、市民に合併して良かったと実感していただけるよう取り組んできた。

また、「市民に尽くすこと」を行動規範に組み入れ、この心持ちを全職員が共有・共感できるように努め、そこから行政サービスの向上と改善に着手する流れをつくり、「即答・即応し実現する市役所」の確立に向けた実践が行われるようになってきている。

2015年受賞 15企業・団体名一覧

受賞企業・団体名(五十音順・敬称略)	受賞モデル名
アクサダイレクト生命保険株式会社	ダイレクト保険・接点強化モデル
SMBC日興証券株式会社《継続賞》	ライフタイム資産形成・顧客開拓モデル
新宿区	国際化された区民への広聴モデル
株式会社セゾン情報システムズ HULFT事業部	FAQとエンジニアの連携サポート・モデル
津市	市民に尽くす行動規範・先行モデル
東京ガス株式会社 ライフバル推進部《大星賞》	ガスの顧客サービス窓口一本化モデル
株式会社パナソ	派遣スタッフ満足度向上モデル
パナソニック株式会社 アプライアンス社日本地域コンシューマーマーケティング部門 コンシューマーマーケティングジャパン本部 CRM推進部	大規模自社会員組織の継続・活用・深化モデル
株式会社ビジョン 海外戦略事業部《継続賞》	インバウンド顧客・通信対応モデル
株式会社フォーラムエイト システム営業グループ	高度技術と顧客ニーズの融合モデル
富士通株式会社 イノベーションビジネス本部 コンバージェンスサービス統括部 コンバージェンスソリューション部	消費者嗜好分析CRMモデル
三井住友海上火災保険株式会社《フジサンケイビジネスアイ賞》	コンタクトセンターの定量分析と活用モデル
株式会社三井住友銀行 リモート営業部・コールセンター	銀行リモート営業・革新モデル
株式会社モリタ	歯科医療における顧客の声・活用モデル
ヤフー株式会社	チャット対応CS向上モデル

今後のスケジュール・取り組み

2015CRMベストプラクティス賞表彰式

- | | |
|-----------|--|
| 日時 | 平成27年11月11日(水) 9時15分～18時20分 |
| 会場 | 東京アメリカンクラブ(東京都港区麻布台2-1-2) |
| 主催 | 一般社団法人CRM協議会 |
| 後援 | フジサンケイビジネスアイ(株式会社日本工業新聞社) |
| 内容 | <p>①表彰式(9時15分～11時20分)
受賞15団体への賞状・トロフィー授与</p> <p>②特別講演・受賞事例発表(13時00分～18時20分)
特別講演:藤枝純教氏(一般社団法人CRM協議会会長)
受賞事例発表:津市ほか14団体の受賞事例の発表</p> |

受賞を受けて

津市職員の取り組みに対する評価を、職員のさらなる取組意識の向上・モチベーションアップにつなげ、全職員が一丸となって、市民の期待に確実に応えていく「即答・即応し実現する市役所」の確立を目指します